二〇二六年度　桐朋女子中学校入学試験（A入試）

筆記試験（国語）

受験番号

氏名

【注意】

一、問題冊子が配られても、開いてはいけません。

二、問題冊子は1ページから17ページまであります。

三、「はじめてください」と言われたら、まず、問題冊子の表紙と解答用紙二枚に、それぞれ受験番号と氏名を書きなさい。

四、答えはすべて解答用紙に書きなさい。

五、問題冊子に書きこみをしてもかまいません。

六、「やめてください」と言われたら、すぐに筆記用具をおき、解答用紙も問題冊子も表を上にして、机の上におきなさい。

七、試験時間は四五分間です。

一、次の①～⑮の――線部のカタカナを漢字に直しなさい。また、⑯～⑳の――線部の読みをひらがなで答えなさい。

① 時間がアマる。
② コーヒーにサトウを入れる。
③ ロウドクを聞く。
④ ミンゲイ品を買い求める。
⑤ 島までエンエイする。
⑥ ネンリョウを補給する。
⑦ 日の出をオガむ。
⑧ ワタのような雲。
⑨ インタビューをロクオンする。
⑩ 異論をトナえる。
⑪ 幼い命をスクう。
⑫ ココロヨく引き受ける。
⑬ シタをまく。
⑭ 京都のジインをめぐる。
⑮ 糸をソめる。
⑯ 浅瀬に足をひたす。
⑰ 慣習にしたがう。
⑱ 選手を率いる。
⑲ 湖水地方を旅する。
⑳ 利益を上げる。

二、次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

①漢字はストーリー性のある文字なので、さまざまな＊俗説が作り出されます。【　i　】俳優で歌手の武田鉄矢さんが、学園ドラマのなかで「人という字はヒトとヒトが支え合う姿だ」と話したことがあります。そしてこれが「人」の字源であるかのように、＊巷に流れました。しかしこれは間違いで、「人」は、ヒトが横を向いて手を下ろした姿を表しているのです。ヒトが正面を向いて手を広げた字が「大」です。

②僕たちは、根拠がなくても魅力あるストーリーに惹かれることがあります。「そうそう、わかる～」とそのストーリーへの共感が、そのまま根拠にすり替わってしまうのです。

〔中略〕

ネット上では、こうした共感ストーリーが、＊テリトリーづくりとして機能する側面が強いように感じます。それは【　ii　】好意的なテリトリーを生み出すだけではありません。時に反対の共感ストーリーと結び付き、攻撃的なものとして膨らみ自らのテリトリー以外の人を深く傷つけることにもなります。

X

円（〇）と二等辺三角形（△）は、異なる図形です。しかし、この異なる二つの図形は、同じ図形を表したものだ、という見方もできます。それは＊円錐形です。垂直方向から見れば円（〇）、水平方向から見れば二等辺三角形（△）です。同じ図形であっても、見る方向によって見え方が変わるということです。それは、見ている方向によってしか、物事を理解できないということでもあるのです。

地球球体説や地動説などは、古代の世界では理解し得ない話でした。まっすぐ立っている場所がなぜ球体なのか、球体であるのなら下側にいる人は地球から落ちるではないか。太陽も星も動いているのをみんなが目にしているのに、地球が動いているというのは、どういうことなのか。これらを理解するには、科学的な知識を受け入れる能力が必要なのです。と同時に、視点を移す思考の柔軟性も併せ持たなくてはなりません。

僕たちが経験する全ては、現実に(a)即したストーリーがあります。そのストーリー自体は、僕たちが生きていくうえで、とても大切な＊情緒の一つとして育まれます。

しかし、現実として経験しづらい真実は、理解する以前に、感情・感覚として受け入れることが難しいのです。地球球体説や地動説が受け入れられないのは、経験する現実を感情や感覚で捉えていたからです。

〔中略〕

自分が二等辺三角形（△）だと思ったものを、ある人は円（〇）だと言う。【　iii　】、どちらが本当だろうかと確認します。すると、二等辺三角形（△）も円（〇）も、それぞれ一側面しか表しておらず、その実態は円錐形だったということもあるのです。

③共感ストーリーがもたらすテリトリーを少し＊俯瞰して見る能力を養うことは、文章を書いたり読んだりするときだけでなく、コミュニケーション全般に必要だと思うのです。僕たちが目にしているものの実態は、目に見えていないところにあるかもしれません。目に見えていないものが「ない」わけではありません。昼間、東海道新幹線の車窓から見えていた富士山も、夜には見えません。だからと言って、富士山の存在が消えたわけではありません。あるけれども見えない。［　　I　　］。関心のないものは見えない。ここでいう「見える」は、単に視覚を指すものではありません。思考の方法、あるいは表現の在り方を指しています。視点を変えることによって、曖昧なことばに宿るストーリーを批判的に見ることができます。それによって、思考の違いを理解する能力を育てていく重要性を感じるのです。

〔中略〕

そしていまは、インターネットで結ばれる社会です。ＳＮＳ（ソーシャル・ネットワーキング・システム）の＊普及は、それまでの文章としてのメールとは異なる機能を生みました。それがチャットです。チャットは「おしゃべり」という意味で、短いことばでのやり取りです。

これより以前に、女子高校生（ＪＫ）が中心になって、そのコミュニティーだけで通用するＪＫ語が生まれ、一つの若者文化として定着していました。それは短縮や感覚的表現が特徴のことばです。これがチャットとの(b)相性がよかったのか、ＳＮＳの普及で一気に拡散するようになり、ＪＫ以外の人たちもいま風のことばとして使うようになってきました。それは次第に、話しことば以上書きことば未満の「チャットことば」とも言える新しいことばの＊概念を生み出しました。

【　iv　】、コロナ禍でのオンラインコミュニケーションは、手軽に話ができるチャットツールが中心になりました。ＳＮＳを中心に使われていたチャットが、企業内のやり取りに使われるようになりました。おしゃべりの道具が仕事に使われるようになったのです。会社でも「チャットことば」という新しい形でのコミュニティーがつくられました。ここで使われることばは、＊マーケティング用語をカタカナ語で交ぜたものが多く、日本語としての意味が未消化なまま量産され、そのグループや組織、同業の仲間の中で流通しています。

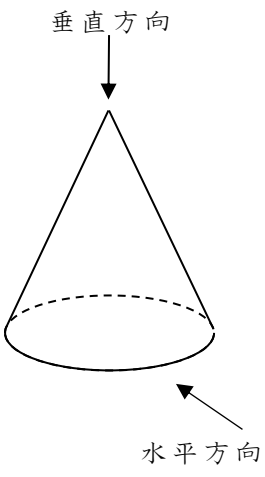
そのため、ことばはあふれる一方で、グループ、組織内の仲間内のことばとして内向きの閉じたコミュニケーションの道具となっています。仲間内だけで通用することばは、組織や仲間以外の開かれたコミュニケーションの中では流通しにくくなり、結果としてことばがどんどん収縮しているのです。

④２０２４年11月に亡くなった詩人の谷川俊太郎は生前、昨今のことばについて「量は増えているが、質が薄っぺらになっている」という＊趣旨のことを話していました。

（前田安正『Ａｉに書けない文章を書く』筑摩書房）

＊俗説――確かでないが広く言い伝えられている説。
＊巷――世の中。
＊テリトリー――関係する範囲。

＊円錐形――下のような立体のこと。
＊情緒――あるものごとにふれたときに起こるさまざまな感情。
＊俯瞰――高いところから見おろすように、全体をながめること。
＊普及――広く行きわたること。
＊概念――同じようなものをまとめた意味内容。
＊マーケティング――会社が商品の販売（はんばい）やサービスなどをうながすための活動。
＊趣旨――文章などで述べようとすることがら。



問い一、次の――線部(a)・(b)の語句の本文中の意味として、最も適切なものをそれぞれ選び、記号で答えなさい。

(a) 即した
ア　必ず理由のあった　　イ　ぴたりと当てはまった
ウ　しっかりと根づいた　　エ　だれもが理解した

(b) 相性
ア　うまくなじむかどうかで見た関係　　イ　親しい気持ちのこもったつながり
ウ　相手と仲良くできるかどうかのコツ　　エ　おたがいに反発しない内面の性質

問い二、空らん【　】ⅰ～ⅳにあてはまる最も適切な言葉を次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア　果たして　　イ　さらに　　ウ　必ずしも　　エ　とうてい　　オ　かつて

問い三、――線部①「漢字はストーリー性のある文字なので、さまざまな俗説が作り出されます」とありますが、これはどういうことですか。最も適切なものを、次の中から選び記号で答えなさい。

ア　漢字は世界のあらゆるものを表現することができるため、物語を作るためになくてはならない文字だということ。

イ　漢字は人々の交流が表されているもので、そこに表現されている交流の様子はあやまって理解されやすいということ。

ウ　漢字は人が生きる上で必要なことを教えてくれる文字なので、さまざまな理解のしかたが加えられていくということ。

エ　漢字はある物の形や状態をとらえて表現されたものなので、そのなりたちについてさまざまな説明が作り出されるということ。

問い四、――線部②「僕たちは、根拠がなくても魅力あるストーリーに惹かれることがあります」とありますが、その結果、どうなってしまうのかについて次のように説明しました。次の空らん〔　〕1・2に入る適切な言葉をそれぞれ本文中から二字でぬき出して答えなさい。

私たちは、〔　1　〕しやすいストーリーを理由もなく受け入れ、ものごとの〔　2　〕に気づかなくなる。

問い五、段落Xで説明されているある図形のとらえ方について、次のように表にまとめました。A「これは円だととらえる」、B「これは二等辺三角形だととらえる」、C「これは円錐形だととらえる」に対応する内容を【文章】の中から読み取り、空らん〔　〕1～3に一文で答えなさい。ただし、空らん〔　〕1・2に入る内容についての順序は問いません。

【文章】

夏に、スイカやキュウリなどを井戸水で冷やして食べたことはありますか。井戸からくみ上げる水は冷たくておいしいものです。一方、冬の朝に井戸水で顔を洗うとむしろ温かいのです。井戸水は地下からくみ上げます。地下十メートルの地中の温度は、年間平均気温と同じか、一～二度高い温度に保たれています。地下水は地上に降った雨や雪が長い年月を経て地下深くの地面の中にたまったものです。これを井戸水としてくみ上げるため、一年を通してほぼ同じ水温になるのです。井戸水の温度は、関東では十六～十八度、年間の温度差は一度以内であることが一般的です。夏の地表の気温は地中より高いために井戸水は冷たく、冬の気温は低いために温かく感じるというわけです。

段落X	【文章】
図形のとらえ方について	井戸水について
A、これは円だととらえる。	〔　1　〕。
B、これは二等辺三角形だととらえる。	〔　2　〕。
C、これは円錐形だととらえる。	〔　3　〕。

問い六、――線部③「共感ストーリーがもたらすテリトリーを少し俯瞰して見る能力を養うことは、文章を書いたり読んだりするときだけでなく、コミュニケーション全般に必要だと思うのです」とありますが、「共感ストーリーがもたらすテリトリーを少し俯瞰して見る能力」がいかされないと、コミュニケーションにおいてどのようなよくない状況（じょうきょう）が起こることがあると筆者は考えていますか。それが書かれている一文を――線部③より前からぬき出し、始めの三字を答えなさい。

問い七、空らん［　　］Ⅰに入る最も適切な言葉を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　見ているはずなのに見えていない　　イ　見えていないのに見えたように感じる

ウ　見ようとしているのに見えていない　　エ　確かめられないけれど見えている

問い八、――線部④「２０２４年11月に亡くなった詩人の谷川俊太郎は生前、昨今のことばについて『量は増えているが、質が薄っぺらになっている』という趣旨のことを話していました」とありますが、筆者が谷川俊太郎の言葉を引用したことには、どのような意図があると考えられますか。最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　ことばの意味を十分に理解しないまま、仲間同士にしか通じない表現がたくさん生み出されているという主張を確かなものにするため。

イ　このごろの日本語にはカタカナ語が多く取り入れられ、それが仕事にも役に立つまでに育っていることをより読者に印象づけるため。

ウ　最近作られたチャットことばには、詩人にも理解しきれないほどの細かな意味の使い分けがあることを強調するため。

エ　大人が若者同士の仲間から外れ、彼らの使うことばをうまく理解できないままでいることを強

く批判するため。

問い九、　　線部「思考の違いを理解する能力を育てていく重要性を感じるのです」とありますが、その能力を育てるためには、どのような姿勢をもつことが大切だと思いますか。学校生活や学習活動の中から具体的な場面をひとつあげて、一文で答えなさい。

三、次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。ただし、字数制限のある問いに答える場合は、「、」や「。」などの記号も一字と数えます。

野球部に所属している中学二年生の彦坂豪太郎の趣味は＊編みぐるみ。同級生の篠田は不登校で学校には姿を見せないが、職場体験をきっかけに話をするようになった。ある日、豪太郎は篠田に自作のモデルロケットを文化部発表会に展示してほしいと頼まれる。豪太郎も自作の編みぐるみを小坂郁美という仮名で出品することにした。

文化部発表会が終わった。

展示されていた作品はすべて片づけられ、会議室にはまたもとのように机と椅子が並べられた。小坂郁美の正体を明かす度胸のない豪太郎は、①三日目の朝練前にこそこそ会議室に入って、早々と編みぐるみを引き上げてしまった。だから豪太郎の編みぐるみは、一日限りの展示だった。それでも豪太郎のからだは、②いまも微熱が続いているように、ぽうっと火照っている。

発表会の二日目、豪太郎は何度も会議室へ足を運んだ。
そして、いかにもモデルロケットが気になるようなそぶりを見せながら、編みぐるみのそばに張りついていた。小坂郁美の作品を目にした生徒たちが、「かわいいね」とか「じょうずだね」などといいながら、豪太郎の横をすり抜けていく。そのたびに豪太郎の心は、春を待つつぼみのようにふくらんでいった。
これまで、ばあちゃんにしか見せたことがない編みぐるみだ。
「この編みぐるみ、生きてるみたいだね」
という声を聞いたときには、豪太郎の心の中のつぼみが一気に満開になった。

翌日、豪太郎は展示を終えたモデルロケットを手に、篠田の家へ向かった。
三度目の訪問なので、もうすっかり道筋も覚えている。鼻歌交じりにたどり着いた篠田の家の庭先では、オレンジや黄色や紅色のスカシユリが咲きにおい、ニ頭のモンシロチョウがかわるがわる蜜を吸っていた。
今日はテーブルの上に、はちみつを添えたスコーンが並んでいる。
スノーボールクッキーじゃないのかと、豪太郎が恨めしげに皿を見ていると、
「先日はおみやげのクッキーを渡しそびれてしまったので、これを持って帰ってください」
といって、篠田がスノーボールクッキーが入った、ずっしりと重たい紙袋を差し出した。
「えっ。いいのか、こんなにたくさん」
と、ほくほく顔の豪太郎にうなずいて、篠田がかたわらの封筒から写真を取り出した。
「きのう、倉橋先生がいらっしゃいました」

倉橋先生は文化部発表会の三日間、連日、篠田の作品の写真を撮っていた。さっそくそれをプリントアウトして、持参したのだろう。四、五十枚ある写真には、篠田のモデルロケットや掲示物、それを熱心に見学している生徒たちの姿が収められている。

そのうちの一枚に、小坂郁美作の編みぐるみが写りこんでいた。

プリントされたぶたの編みぐるみに、豪太郎の頬もついゆるんでしまう。

「作り手の情熱が伝わってくる力作ですね、小坂郁美さん」

写真を手にしていた豪太郎の呼吸が、一瞬止まった。

その場に固まったまま、視線だけそろそろ動かして見ると、篠田が自信たっぷりにほほえんでいる。

「やはりそうでしたか」

〔中略〕

またも篠田にしてやられた。豪太郎は顔をしかめて、頭を抱えこんでしまった。

が、そのうち豪太郎の心の中に、猛烈な恥ずかしさがわきあがってきた。こんなふうにこそこそ編みぐるみを作っている自分を、篠田はどう思ったのだろう。

豪太郎はこのままスノーボールクッキーを抱えて、逃げ出したくなってしまった。

そんな豪太郎の気持ちを知ってか知らずか、篠田はティーカップの紅茶を一口飲んで、ソファーに深く座り直した。

「しかし、次回は小坂郁美ではなく、本名の彦坂豪太郎で発表しましょう」

さっきまでからかうような笑みを浮かべていた篠田の顔に、ふまじめな影はこれっぽっちもなかった。

豪太郎は篠田の瞳に、吸い寄せられるように視線を重ねる。

「キモイって、いわれたくないんだ」

③ふいに唇からこぼれ落ちた言葉に、豪太郎自身がとまどってしまった。

あの日のことが、まぶたの裏に映し出されてくる。

黒板の上の丸い時計、窓にかけられた黄色いカーテン、学級文庫に並んだ分厚い図鑑。そして、いつも胸にまとわりついて消えることのないあの声――。

押し寄せる苦い記憶から逃れるように顔を上げると、篠田が促すことも拒むこともしない静かなまなざしで、豪太郎を見つめていた。

豪太郎は、ピアノの脇の本棚に目を移す。

ホーキング博士のスペース・アドベンチャーシリーズが、ずらりと並んでいる。『宇宙への秘密の鍵』は、豪太郎も読んだことがあった。

宇宙へ行きたいという思いを、篠田はうちあけてくれた。豪太郎も篠田に、これまでだれにも話さずに隠し続けてきた心の内を、さらけ出してみたくなった。

「おれは小さいころ、ウルトラマンとか戦隊ものとか、男子が夢中になっている遊びが苦手だった。だからみんなの輪に入れなくて、いつもひとりでいた」

豪太郎は本に目を向けたまま、低い声で話しはじめた。

「そんなとき、ばあちゃんちで七段飾りの立派なひな人形を見たんだ。それからおれは、ひな人形に夢中になった。小学校に入ってからも、ひとりでいることが多かったけど、教室でひな人形の絵を描いたり、折り紙でおひなさまを折っていれば満足だったんだよ」

ばあちゃんの家で、篠田が見つけた籐のかご。

あれは、いつでも豪太郎が遊べるように、ばあちゃんが一年中出したままにしておいてくれたひな飾りだった。

はじめて女びなを手にしたとき、豪太郎は【　A　】した重さに驚いた。つりあがり気味の細い目、【　B　】通った形のよい鼻筋、かすかに開いたおちょぼ口。女びなの着物の滑らかな手触りは、とてもここちよかった。べとべとしたソフビ人形とは大違いだった。

豪太郎はひな飾りで、いろいろな遊びをした。男びなと女びなのうしろの金屏風は、六つ折りにしてパタパタたためた。ひな道具はどれもていねいに作られているので、箪笥は一段一段開くし、針箱の針山には本物の針を刺すこともできる。鏡台には、自分の顔がちゃんと映った。ぼんぼりには実際にあかりをともすことができたし、小さな汁椀や飯椀が【　C　】並んだお膳は、ままごと遊びにぴったりだった。

籐のかごに入った箪笥の引き出しには、あのころ豪太郎が隠しておいたきれいな小石や花の種が、いまも【　D　】しまわれているはずだ。

「あれは、三年生になったばかりのときだった。突然おれは、隣の席の男子にいわれたんだ。豪太郎ってキモイ。男のくせに、いつも人形の絵を描いたり折り紙を折ったりして、女みたいでほんとにキモイ。みんなキモイっていってるんだから、って」

突然投げつけられた「キモイ」が、豪太郎の耳に生々しく蘇ってきた。耳をふさいでも首を振っても、どこまでも追いかけてくる粘りつくような声。

「キモイって、【　I　】言葉だよ。教室のどこかでキモイが聞こえるたび、おれの心はいつも悲鳴をあげてた。その言葉が、いきなり自分に降ってきたんだ。そうか、おれはキモイやつなんだ。みんなそういっているんだ。……そう思った瞬間、おれの耳はブーン、ブーンと鳴り出した」

自分の座席に座ったまま、豪太郎はまぶたをきつく閉じた。そして、しばらくして目を開けたときには、教室の中は白っぽい膜におおわれていた。耳鳴りは鼓膜をひっかくようにして、どんどん大きくな

っていった。からだに力が入らなくなって、椅子に腰かけている上半身がゆらゆら揺れはじめた。

過去と現在の境があいまいになって、豪太郎の意識はもうろうとしてくる。

豪太郎は、目の前に座っている篠田の気配を頼りに、下腹に力を入れてふたたび話し出した。

「それからおれは、ひな人形の絵を描いたり、折り紙をしたりすることをやめた。二度とキモイなんていわれないように、自分じゃない自分になりきろうとしたんだ」

豪太郎は、内気な性格というわけではなかったので、自分から声をかけて、ドッジボールやサッカーの仲間に入れてもらった。

もともと運動神経は悪くなかった。だから、ドッジボールをすれば鋭いボールを投げ、サッカーのキーパーを任されれば、ゴールポストぎりぎりのシュートをはじいてみせた。クラスのみんなは、豪太郎の意外な一面に目を丸くした。そして豪太郎は、いつの間にかチームに欠かせないメンバーになっていたのだ。

「みんなが苦手な小数や分数の解きかたを、進んで教えてあげたりもした。そんなふうにしておれは、少しずつクラスに溶けこんでいったんだ。四年生になるころには、おれはスポーツ万能で勉強もできる陽気なキャラとして、みんなから一目置かれるようになっていた」

それからは、いつも豪太郎のまわりには、冗談をいいあったりふざけたりする友だちがいた。けれども④豪太郎は、ひとりぼっちでいたときよりも、ずっと孤独だった。

そんな豪太郎の心のすきまを埋めてくれたのが、編みぐるみだったのだ。

話し終えると、肩のあたりがひどく重かった。

知らないうちに、全身に力が入っていたのだろう。豪太郎が首筋をさすりながら視線をさまよわせる

と、サイドボードの上に、モデルロケットがぽつんと置かれているのが目に入った。

⑤会議室で、多くの生徒たちの好奇（こうき）の目にさらされたロケットは、ようやくその役目を終えて、すみなれた古巣でほっとひと息ついているように見えた。

（海緒裕『ぶたのしっぽ』講談社）

＊編みぐるみ――編み物の技法を使用して毛糸などで作った人形。

問い一、――線部①「三日目の朝練前にこそこそ会議室に入って、早々と編みぐるみを引き上げてしまった」とありますが、なぜ豪太郎は文化部発表会の終わりを待たずに編みぐるみを引き上げたのですか。理由を説明した次の文の中から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア　篠田のモデルロケットの出品が目的であり、自分の作品はついでだったから。

イ　注意して見ていたが、だれからも期待したような評価を受けられなかったから。

ウ　自分の作品を他の人に見られることをつらく思い、たえられなくなったから。

エ　自分が作ったものであることを、みんなに知られないようにしたかったから。

問い二、――線部②「いまも微熱が続いているように、ぼうっと火照っている」とありますが、豪太郎がこのようになったいきさつについて、二人の生徒が話し合っています。会話の中の空らん〔　〕1～6に入る言葉を本文中からぬき出して答えなさい。

桐子…豪太郎くんは、自分の作った編みぐるみがどのような評価を受けるのか、気になってしかたなかったのね。それが、「〔　1　〕」という行動から伝わるね。

朋子…発表会で「『〔　２　〕』」「『〔　３　〕』」などと生徒たちが口々に評価するのを耳にするたびに、彼の心がだんだん喜びに浮き立つ様子が、「〔　４　〕」というたとえで表現されているわね。

桐子…「『この編みぐるみ、生きてるみたいだね』」という声を聞いた時は、「〔　５　〕」とあるから、豪太郎くんがますます嬉しい気持ちになったということがわかるね。

朋子…これまでは編みぐるみを「〔　６　〕」とあるのだから、それ以外の人がどういう感想を持つか、不安や心配の気持ちがあったのだと思うわ。それだけに、この時の気持ちは特別なものだったろうね。

問い三、――線部③「ふいに唇からこぼれ落ちた言葉に、豪太郎自身がとまどってしまった」とありますが、豪太郎がとまどった言葉とはどのようなものですか。これについて説明した次の文の中から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア　本名をかくして出品したことをからかってきた篠田に対して、とっさに出た反論の言葉。

イ　もっと自信をもつよう説得してきた篠田に対して、苦しまぎれにつぶやいた言いわけの言葉。

ウ　本名で出品するよう真剣（しんけん）に語りかけてきた篠田を前に、思わずもらした本音の言葉。

エ　しつこく本心を聞き出そうとする篠田を前に、あきらめさせるために告げた偽（いつわ）りの言葉。

問い四、空らん【　】A～Dに入れるのに最も適切な言葉を次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア　ちょこんと　　イ　ずっしりと　　ウ　もっさりと

エ　ひっそりと　　オ　ゆったりと　　カ　すっと

問い五、空らん［　　］Ⅰに入れるのに最も適切な言葉を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　胸の内がすく　　イ　心の底が煮えかえる

ウ　胸の底をえぐる　　エ　心の内に灯をともす

問い六、――線部④「豪太郎は、ひとりぼっちでいたときよりも、ずっと孤独だった」とありますが、それはなぜですか。五十字以内で説明しなさい。

問い七、――線部⑤「会議室で、多くの生徒たちの好奇の目にさらされたロケットは、ようやくその役目を終えて、すみなれた古巣でほっとひと息ついているように見えた」とありますが、ロケットがこのように見えた豪太郎の気持ちはどのようなものだったと考えられますか。そのような気持ちになった事情もふくめて答えなさい。